

幼児の発達と言語表現活動 ——幼児の「つぶやき」の観察（中）——

山崎ひと美*・小林洋文**

本研究は、『長野県短期大学紀要』第50号（1995年12月）に発表した「幼児の発達と言語表現活動——幼児の「つぶやき」の観察（上）——」の続編である。

I. 「研究（上）」に対する現役の幼稚園教諭等の感想・意見

「研究（上）」に対する感想・意見を、1996年6月～7月、本学幼児教育学科卒業生で、現役（Hのみ元）の幼稚園教諭（A・Gは現在保育園保母）にアンケート形式（自由記述）で聞いてみた。回答者A～Iの氏名、勤務地、在職年数は、以下のとおりである。（敬称略、1996年7月現在）

- A. 太田みゆき（豊野市・保育園）
1986年～11年目
- B. 宮原いづみ（長野市・幼稚園）
1995年～2年目
- C. 奥谷美穂（上田市・幼稚園）
1993年～4年目
- D. 松本玲子（小諸市・幼稚園）
1976年～21年目
- E. 中條さをり（長野市・幼稚園）
1989年～8年目
- F. 宮尾智和子（長野市・幼稚園）

- G. 和田恵美（松本市・保育園）
1991年～6年目
- H. 山本さおり（長野市・元幼稚園）
1988年～9年目
- I. 水出教子（長野市・幼稚園）
1986年～1989年

1992年～7年目
アンケートの質問内容とそれに対する回答は、以下のとおりである（ほぼ、原文のまま）。

(1)——同感したところがありましたら、教えてください。

A. 特に3歳児のつぶやきから、子どもの思考は大人の常識の枠を越えた柔軟なものであることに気づかされました。つぶやきの事例から、年齢毎の特徴や発達面がとてもよく感じられた。

B. 自分のクラスに、サ行がタ行の発音になってしまう子どもがいて、「せんせい」を「てんてい」と言ったりします。私も、その子が話したいという気持ちを奪ってしまうことが嫌で、訂正したりはしていません。けれども、その子に対しては、意識的に正しい言葉で話しかけることが必要なのだと思いました。

C. 自分で具体的に経験できた事が、豊かに積み重ねられてこそ、子どもたちは、自分の言葉や絵で表現したいと思う意欲が出てくると思う。

D. 「つぶやき」というのは、その子の環境、経験から言葉を使えるようになること＝じっくり考えることだと思う。だから、その子のすべて（環境、家庭）が見えてきます。

*〒381-0085 長野市上野3-260

昭和61年3月本学幼児教育学科卒業生

**〒380-8525 長野市三輪8-49-7 長野県短期大学

**Nagano Prefectural College, 8-49-7 Miwa,
Nagano 380-8525, Japan.

E. 沢山ありますが、特に187～188ページの「子どものつぶやきを通して、その子が見えてきたり、家庭が見えてきたりする。」とか、最後に一言の「子どもの言葉を追うことでその子のすべてが分かるわけではない、ということをつけ加えておきたい。言語表現活動は消極的で平凡であっても、その時々感情やそれに伴う表情も大切な表現方法なのだ。言語表現活動以外の表現の可能性を見落とさないように留意したい」。実際、毎日の子どもたちとのかかわりの中で、それを強く感じます。

F. 子どもたちは五感を通して環境に働きかけ、体験の中から素晴らしい言葉へとつながっていく。一だからこそ。自然や人間や社会とのかかわりをたくさん経験させていくことの大切さ。

言葉・つぶやきから見る子どもの成長・発達または環境の背景の見取りの大切さ。

G. 4歳児の5月《母の日を前にして、お母さんについて話し合う中で、Y子「……私はお母さん、嫌い。だって怒ってばかりなんだもん……」》の記録の部分全体。

187ページからの「3～5歳児のつぶやきの全体的考察」の部分。その中の「最後に一言」から終わりまでの部分。

4歳児の2月の「言葉のやりとり、人との関わりがふんだんに盛り込まれたお店やさんごっこを私は大切に考えてきたつもりだが、保育者の既成概念（イメージ）と現在の社会しか知らない子どもたちの持つイメージとの間の「ずれ」が生じ、年々大きくなっていく。……」。大人のイメージと子どもたちのイメージのギャップについて。

H. 「保育者の苦勞を生きがいに変えるほどの力を子どもは持っている」（176ページ）というのは、本当にその通りだと思いました。186ページの「見せるための運動会」には私も疑問を持っていました。

(2)——異論、疑問点はどこですか。また、あなた

はどのようにお考えですか。

B. 子どもたちに様々な体験をさせてあげたい。私もそう思います。その体験が様々な力を培うと思います。でも、その体験がひとつひとつ単発的なもので終わってしまうのではなく、つながりのあるほうがいいのかなと思います。私の毎日の保育もコマ切れになってしまっているのです、つながりのある（流れのある）保育はどんなものなのかと思います。

D. 4歳児の4月、S子が「毛深い人はやさしいってお母さんが言っていたよ。私はね、毛深くはないけど、やさしいよね。」とお母さんの言っていたことを否定している。また同じ4歳児の5月、Y子が「……私はお母さん、嫌い。だって怒ってばかりなんだもん……」と反発している。両児とも母親に対してだが、この時期の子は、女や母親に深い影響を受けるが、この場合は家庭環境によるものだと思う（S子は姉の存在、Y子は長女であるため父母が厳しい。）。

それと同時に、この時期、反発しなければ成長できないという面もあるのでは……。この時期（4歳児）に自我意識を持ち始めた子どもたちに、「拒否する力」（自我を意識し始める）が出てくるからだろうか？

E. 異論ということだけでなく、七夕の短冊に書いた願い事（論文では4歳児7月のK子の例）で、昨年の自分のクラス（3歳児）の場合、男児と女児の違いが感じられました。男児の場合は「カーレンジャーのおもちゃが欲しい」など具体的で身近な願いが多く、女児は「セーラームーンになりたい」などで、夢の世界の広がりを感じました。一概に男児と女児とは分けられません、性別による違いもあるのでしょうか。

また、子どもの多様な表現形態の中から、今回とりわけ言語表現能力の発達段階に注目したのはなぜですか。教えてください。

(3)——その他、全体を通しての感想、ご意見をお

書きください。

A. 普段何げなく聞いている子どものつぶやきも、記録し考察することで、その子を取り巻く環境、子どもの内面が見えてくることを感じさせられる。そのためには、常に子どもをよく分かってあげられる大人の感性が大切なのだと思う。

B. 毎日、毎日子どもを迎え入れ、送り出すことに追われているような生活で、一人ひとりの子どもの表情、動き、ことばを見取る余裕はないというのが今の状況ですが、私も子どもたちのつぶやきを残していきたいです。

C. 読み始める前は、難しいことが書いてあるのかと多少抵抗がありましたが、読んでみると、たくさんつぶやきがあり、具体的で楽しく読ませていただきました。つぶやきの後に書いてある所(考察)がとても勉強になりました。

E. 正直に言うと、最初は「研究論文」という文字を見て難しいというイメージを持ってしまったのですが、読み始めると、自分のクラスの子どもたちからも同じような言葉を聞いたことがあったり、同感するところが多く、楽しく読ませていただきました。どのつぶやきからも、その時の子どもの表情が見えてくるようでした。そして、山崎先生の、子どもに対する温かなまなざしを感じました。

F. 子どもの「ことば」「つぶやき」から、その子ども自身が見えたり家庭が見えたり、発達が見えたりするが、それを聞き逃さず、子どもの置かれている状況や環境を見ることが大切であると感じました。

また、3歳から5歳までの間で、成長とともにつぶやきも発展して、子どもの成長ぶりが目に見えるようで、「すごい」と思いました。子どもたちの感性って、大人が思いもよらないところがあって、とても楽しい。いろいろな経験をさせてあげ、たくさんを感じて欲しいと改めて思いました。

G. 実際の保育の現場の中からの考察ということで、とても身近に感じられ、同感するところがほとんどでした。子どもの「つぶやき」は、とかくそのかわいらしさ、あどけなさにばかり目が行きがちですが、何げない一言の中に、子どもの言語の発達、社会的な環境などが深く関係していることを認識しました。

H. 私も幼稚園に勤めていた頃、おもしろいなと思った言葉や気づいたこと等をメモするように心がけていましたが、行事に追われ、ゆとりがなかったこともあり、継続してできなかったのも、残念でした。よく、こんなに上手にまとめられたなーと感心しました。とても読みやすく分かりやすかったです。

I. 日頃保育にあたっていくなかで、子どもたちのつぶやきはたくさんあります。けれども、その一つひとつの背後にあるものを追って考えたりするという事は、忙しさにかまけて怠っている毎日です。でも、子どもの何げなく言葉にこそ、本当の心の中や育ちが見えてくるような気がしました。

(4)——今後、この研究で深めていったほうがよい課題(研究の方向)がありましたら、教えてください。

C. 現場の経験をもとに、こういう研究ができるなんて、本当にすごいと思います。今後も、頑張ってください。

D. 「つぶやき」は、言葉の獲得とともに、環境(家庭環境、友だち、マスコミの影響、男女差等)が重大な鍵を握ると思われます。そのあたりからからも調査をされたらどうでしょうか。

F. 環境と言語の関わり

G. 発達、年齢に応じた、他人への思いやりの言動の育て方。

I. その子の発する言葉の一つひとつには、それぞれの思いや背景があると思いますが、その点についても触れられていて、分かりやすかったです。

す。

◇日常の保育の中で◇

(5)——幼児のつぶやきをいくつか教えてください。

A.

《給食でコンニャクが出たとき(4歳児)、

E子「コンニャクって おなかを そうじするんだよ」

Y男「うん、そうだよ。おなかの中でコンニャクが あそんでるんだよ。つるん つるんて すべりだいみたいだね」

《お絵かきをされていて。外で友だちと遊んでいるところを描きながら、太陽を2つ描いたM子に対して、

保「Mちゃん、太陽ふたつだね」

M子「うん、こっちが今日のたいよう。こっちが明日のたいよう」

B.

《朝の活動時、当番が他の子どもたちに「お天気はどうですか?」と聞いています。保健室には両側に窓があります。その日は、一方の窓からは晴れた空が見え、もう一方の窓からは曇り空が見えました。そのことに気づいた子どもたちに、

保育者「どっちにする?」

4歳男児「(空は) つながってると思うよ」

C.

《つながりトンボを見て、5歳男児「あのトンボ結婚しているんだよね」

《台風が近づいているとき、5歳児男の子「せんせい、土曜日、ここの幼稚園でも台風やるって!!」

《ハーフパンツをはいている私を見て、

4歳児女の子「どうしてスカートはかないの? 男みたい」

私「先生、男の子なのかな?」

4歳児女の子「(おどろいて) えっ 本当に男の子?」

この時、本当に男の子だと思っていたようでした。

D.

《吹いて来た風に飛ばされて地面をくるくる回る桜の花びらを見て、年長児「花びらがはしってるよ」

《桜の花びらが春の嵐に吹きまくられ、園庭に花びらの吹きだまり。

年少児「花びらの海ができちゃった」

年中児「わあ! 風がおそうじしてくれる」

年中児「花びらがおどってるみたい」

桜の花に関する子どものつぶやきは、満開のときよりも、風に吹かれて散る時の方が多いようです。

E.

私の4歳児クラスのSちゃんのお母さんが教えてくださいました。

《ある日、Sちゃんが、外でうんちをしてみました。その後でお姉ちゃんとうんちに砂をかけて埋めた後のこと。

手を合わせて「うんちさん 天国いったかなあ」

実は、この2、3日前、うちのクラスのザリガニが死んでしまい、みんなで相談してお墓を作ってあげたことがあったのです。その時、

Mちゃん「ザリガニさん どこいっちゃうの?」

Tくん「天国にいくんだ」

という会話を、Sちゃんが聞いていたのかもしれませんが。

F.

《4歳児男児、登園時の園バスの中で。

T男「今日、お母さんがごはんをいっぱい食べてきてねって言った」

先生「じゃあ 頑張って食べようね」

T男「うん、

(カバンの中ではし箱がカタカタなったのを聞いて)

T男「今、カバンの中で、おはしさんも『いっ

ばい食べてね』って言ってたよ』

《給食中、4歳児女児、

A男「先生 牛乳残してもいい？」

先生「あと ひと口 頑張れ！」

K子「ちゃんと飲まないと 大きくなれないんだよ。どんどん小さくなって ありんこになっちゃうんだから」

G.

《飛行機が飛び立ったのを見て、

3歳児女児「ひこうき どこいくのかな。あっ おかいものだね！」

《2歳児女児、トンボが顔をなで回しているのを見て、「トンボ かゆい かゆいって……」》

《保母が転んでしまい、「痛い〜」と言っていると、

2歳児男児T男「いたい？」

保母「いたよ〜」

T男「(なでながら) とんでけ〜!!」

おまじないの “いたいの、いたいの、とんでけ〜” の意味のつもりでしょう。

H.

3歳児

《「先生、今日はもう歩きのお迎えに行ったの？ いつも “早く行かなくちゃ” って言うんだよね。キーン コーン カーン コーン!! (チャイムのまね)》いつも焦ってバタバタお迎えに行っていた私。

《着替えが早くできて、「なんで ほくってこんなに早いんだ？」》

《「先生もほくちの子になれば軽自動車やワゴン車にのっけてやるよ」》

4歳児

《予防注射の日「どうして針って穴がないのに注射のくすり(体)に入るの？」》

《「今日、〇〇ちゃん 頭わるくて (痛くての意) お休みだって」》

《先生の私「今日は、好きな動物の鳴き声でお返事してください。〇〇くん」

〇〇くん「ぞう!!」》

5歳児

《予防注射の日「お医者さんと “あっち向いてほい” してればいいよね」》

《おにぎりが笹に包んであって、「今日、おさむらいさんのお弁当もってきたよ」》

《不安そうに「先生、アルプスイちまんじゃくって “こやぎ” じゃなくて “こやり” の上だよね?」。お友達が自信をもって “こやぎ” と言っていたらしい。》

I.

《バス登園のとき、バスの外の空を見て、先生「今日のお空は青くてきれいだね!」

Tくん(4歳児)「あつ、くもさんがついてきたよ」》

《4月10日生まれのMちゃんをクラスみんなでお祝いしていたときのこと、

Tくんが急に泣き出した。何か訴えて来るTくんの話聞いてみると、

「Tくん(自分の名前)だって10にお誕生日なのに……」。Tくんは10月10日生まれで4月10日生まれではないのですが、10が付くのはどうして自分は仲間外れにされてお祝いしてもらえないのかという不信感から、このような泣くという行動にまで及んだのではないかと思われまます。(ちょうど4月はじめで、クラス替えや担任が変わったこともあって不安定で、教師を独占したいという気持ちが強い時期だったので余計、僕のところもみてほしいという願望があったように思われました。)

(6)——幼児の言葉による表現について、日ごろ、どんなことを感じていますか。

B. 一人っ子や兄弟の少ない子ども、近所に友だちの少ない子どももいて、大人の中で育てきた子が多いので、表現の仕方は大人びているような気がします。時には、「ほく、ようちえんつまらないからやめる」などと、こちらがドキッとす

ようなことを言ったりします。子どもらしい表現を大切にしたいです。

C. 子どもの何げない言葉、いろいろな事をよく見ている子どもらしい捉え方に、感心したりして、私にとってもとてもいい刺激になっていると思います。(ふと、笑ってしまったり、心が穏やかになれたり……)

D. 乱暴な言葉を使うある年中児の内面の訴えを読み取りたい。成長が早く、家庭環境も大きく関わっていると思われるので。

E. 子どもの何げない一言に、私自身も真っ白な純粋な気持ちになれる瞬間があります。逆に、子どもの言葉による表現に、私の姿が映ってドキリとし、これではいけないと反省することもあります。

F. 子どもたちの言葉に考えさせられたり、豊かな感性に感心させられたりして素晴らしいと思う反面、テレビなどの影響から悪い言葉、汚い言葉、間違った言葉が氾濫していることを強く感じます。だからこそ、与える環境が大切です。

G. 言葉による表現の仕方は個人差があり(先ずは語彙の獲得量がまったく異なっている)、その理解力にも差があるなど感じている。また、相手の傷つくような言葉(バカ、へんなの、等)を平気で言う子どもが多く、とても気になる。

I. 大人にはない、おもしろい表現がたくさんつまっていると思います。ただ、その表現をつぶしてしまうのではなく、その子が、今その言葉、会話のなかで何を発見し何が楽しいのか、見つけられたらいいのに……と思っています。

(7)——あなたの園では、「文字」に関して指導していますか。しているとすれば、どの程度のことを、どのようにしていますか。

A. 特別に文字の指導はしていなかったが、園での遊び(カルタ取り、七夕祭りなど)のなかで、子どもたちが文字に興味を示していった。5歳児

になると、友だち同士の手紙のやり取りや絵本を通して急に関心が強くなるようだった。

B. 特に文字を教えるということはしていません。

C. 特に指導していませんが、文字に興味を持てるように心掛けています。(保育室にはあいうえお表を飾ってあります。)

D. 子どもたちが直接ペンやえんぴつを持つのは年中からですが(「線の遊び」という教材)、年少からはしの持ち方の指導、保育者の働きかけなどの環境に心掛けています。

E. 特に指導はしていませんが、子どもたちが興味を持ったときに正しい文字に触れることができるように、保育者自身の書く文字の形や筆順に注意しています。

F. 直接文字の指導はない。黒板などにあいうえお表を貼ったり月日を書くなど、子どもたち自身が興味を持てるように、また興味を持ったときのためにしている程度。

G. 3歳児一身の回りの文字、歌(発表会のせりふなど)に興味を持てるように積極的に話しかけたり、歌ったりしていく。数を教える。4歳児一文字や数を一緒に読んでみる。そういったものが常に目に入るように装飾(掲示)しておく。5歳児一文字、数に興味があり書きたがる子には、正しい書き方を教える。その際、間違えて覚えている子には誤りを教え、正しく指導していく。

I. 特別な指導はしていません。一般の家庭で行われるような挨拶や話し方について、個々に話をしたりしている程度です。

◇その他(できたらで結構です)◇

(8)——保育するにあたっての、あなたの信条はどんなことですか。

A. 目や耳から覚えたことを吸収していくだけではなく、幼児期にいろいろな経験をしたり、思う存分遊べるような保育を心がけたい。

B. 経験も力もないので、とにかく笑顔だけは忘れずにいようと思っていますが、それでもなかなか難しいです。

C. いろいろな事を子どもと一緒に経験し、共感でき、どんな事も子どもと共に作りあげていきたいと思います。

D. ○一人ひとりの遊びを大切に。○言葉に表れない内面の言葉をくみ取りたい。

E. 子どもと一緒に沢山遊ぶなかで、いろいろなことを共に感じたいと思っています。

F. 子どもと同じ目線で物事を見よう、とらえよう。

G. ○話を聞くべきときは、しっかりと聞こうとする子になってほしい。○友だちや身の周りの人を大切に思う気持ちの持てる子になってほしい。

I. 子どもを笑顔で迎え入れ、笑顔で送り出すということ。また、子どもの活動、生活の様子をみて、次の活動を考え出していくということ。

(9)——最近、幼児(保育)あるいは園経営に関して悩んでいること、問題に思っていることかありましたら教えてください。

A. 以前勤めていた保育園では、年々子どもの人数が減っていくため(学年一クラス10~14人)、子ども同士の遊びが少なくなってきていることが悩みであった。

B. お家の方との接触の仕方に悩んでいます。どうすれば、良いお付き合いがしていけるのでしょうか。

C. 帰宅時間が遅くて、準備、記録などの時間が少ない。やらなければいけない事ばかりに追われ、自分自身に余裕がない。4年目となって、いろいろな面で上に立っていかなくてはいけない事が多くなり、自分の保育に余裕がなくなり、自信がなくなったこと。

D. 縦割り保育をしたいが……。

E. 基本的な生活習慣に対する保護者の意識。幼稚園に対して、基本的な生活習慣を身につけさ

せて欲しいという期待が年々高まってきているように思われる。

F. 運動会、音楽会など、「見せる」活動にばかりとらわれていないか。本当に子どもたちが楽しんで活動しているのか、と疑問に思ってしまう(他園と比べたり、競争的になっているような気がして……)。

G. 行事も多く、また保育園ということもあって、子どもが長い時間園にいますので、放課後の時間がとても少ない。決められた時間の中で保育準備が十分できなかつたり、間に合わなくなつたりしてしまうことが多い。事実、転勤前の幼稚園より忙しくなっている。

I. 保育行事を通して、子どもたちがより多くのものを経験し、その中で育ちが生まれてくるというメリットはあるのですが、行事が多すぎる結果、教師側が未熟なうえに、行事に追われてしまい、一つひとつが十分な保育になり得ない場合がある。

(10)——幼児(保育)に関する事で、もっと知りたい、考えてみたい、研究してみたいと思ってることはどんなことですか。

C. LD(学習障害)児について(クラスにそういう傾向のある子がいます)。

D. わらべうた、伝承遊び

E. 子どもが自ら遊びを広げていける環境はどうあったらよいか。

F. ○家庭環境と子どもとの密接な関係(親子の関わりなど)について。○今、LD児、自閉症児などが多くなってきているなかで、障害児保育について。

G. 大きくとらえると「いじめ」問題。「いじめ」を生んでしまうような環境、言葉とはどんなものなのか。「いじめ」の心理を考えてみたい。

II. アンケートに寄せられた感想・意見を読んで現場にいて、日々目の前の幼児と精一杯接して

いる幼稚園・保育園の先生方からは、Iで紹介してきたように、「子どものつぶやきを通して、その子が見えてきたり、家庭が見えてきたりする」(A・F・G)、「体験を積み重ねてこそ、自分の言葉で豊かな表現ができるようになっていく」(C)、そして「保育者の苦勞を生きがいに変えるほどの力を子どもは持っている」(H)などの同感の声が寄せられた。いずれの保育者も実際に幼児のつぶやきをたくさん耳にしており、その幼児の言葉を通して、幼児の置かれている状況や環境を見ることが大切であり(F)、その幼児は何が楽しいのかみつけたい(I)というように、その幼児に対する理解を深めようとする保育者の姿がうかがえた。また「子どもをよくわかってあげられる大人の感性が大切」(A)、「子どものことばに私の姿が映る」(E)等、幼児の相手となっている大人の感性や姿勢について考えさせられることもある。ただ、行事に追われたりその時すぐに記録できないことも多く、継続して記録し続けていないとか(H)、つぶやきの奥まで考察するゆとりがない(B・I)という悩みの声もあった。

また、4歳児の4月、5月のつぶやきなどによく表れているが、幼児は反発しながら成長し、自我を確立していくという側面もあるのではないかという洞察もあった(D)。さらに、つぶやきを深く追求していくと、環境(家庭環境、友だち、保育者、マスコミ、地域など)との関係が重要になると思う(D)、男女差もあるだろう(A・D・E)との指摘もいただいた。

幼児の言葉で日頃感じていることとして、豊かな表現に感心させられたり、素晴らしいと思う(A・C・E・F・I)反面、乱暴な言葉、相手を傷つける言葉を平気で使う子がいったり、大人びた表現をする子もいて気になっているとのことである(B・D・G)。マスコミ(特にテレビ)の影響や、兄弟・近所の友だちが少なく、大人の中で育っているせいであろう(B・D)。また、育ちによ

って言葉の語彙の獲得量にかなりの個人差があり、理解力にも差があるので、当然表現力にも大きな個人差が生まれてくるとの意見もいただいた(G)。どの意見も貴重であり、改めて考えさせられることが多い。寄せられたアンケート回答を読んでいるうちに新たな疑問も湧いてくる。本研究(上)では、幼児のつぶやきの事例を分析し、考察できることは何かという課題に取り組んだわけであるが、では、はたして幼児のつぶやきが発生しやすい状況とはどのようなものであろうか。季節や時間、場所、雰囲気、幼児の心の状態、採集者との信頼関係さらに生育歴、発達の程度、環境等、いろいろな要素が考えられるが、今後つぶやきを採集し続ける中での課題としたい。採集するにあたり、つぶやきとともにその時の雰囲気や状況も忘れずにメモしておきたい。

アンケート回答を読んで強く感じたことがもう一点ある。つぶやきは個人的(個性的というべきであらうか)なものであるはずなので、集計したり平均化したり種類別にしたりできるものではないところに、結論や法則を見い出す難しさがあると思った。いや、結論や法則を見い出そうとすること自体がまちがっているかもしれない。それでも、いくつかの方向からの視点を持ち、幼児のつぶやきから大人が学ぶべきことをはっきりさせていくことが大切であるし、その努力をしていきたい。

最後になってしまったが、毎日の保育・行事・教材研究等で多忙にもかかわらずアンケートに回答してくれた卒業生に感謝するとともに、今後の活躍を期待したい。

III. 幼児の言語表現(つぶやき)を採集することの意義

1. その幼児の「ものの考え方」が分かる

言語には、コミュニケーションをとる手段としての機能(外言)と思考のための機能(内言)が

あるが、幼児の場合、考えていることをそのまま外に向かって発していることが多い。幼児のつぶやきは、その幼児が考えていることそのものの表れであり、その幼児の考えを知る手がかりになる。

2. その幼児をとりまく環境が見えてくる

つぶやきの対象は身近なものから自然現象、社会の話題までいろいろであるが、そのつぶやきの対象のすべてが、その幼児を取り巻き、その幼児が関心・興味を向けている環境そのものである。

また、その幼児が話しかけている相手（保育者、親、友だちなど）も、重要な人的環境である。相手がその幼児に対してどんなふうに接しているかによって、表現（つぶやき）も変わってくる。つぶやきの表現に個々によって違いがあるのも、母親など身近な人の育て方の違い方から来るもの（例えば男女差など）もあるのではないだろうか。

3. 一人の幼児のつぶやきを追っていくと、その子の成長過程が分かる

「研究（上）」では、いろいろな幼児のつぶやきをとりあげているが、一人の幼児のつぶやきを追ったとすれば、その子がその時々、何を考え、何を獲得し、成長していったか、そのプロセスがよく分かるはずである。親が長期にわたってわが子のつぶやきを採集し続ければ、きっと素晴らしい成長記録となるであろう。

4. その幼児に対する採集者（教師または親自身）の在り方を考え直す機会になる

つぶやきの記録をまとめてみると、たくさんつぶやきの記録が残っている幼児とたった1つしかない幼児がいる。自分が一人ひとりとどう関わ

ってきたか、反省させられる。幼児が自分に心を開いているかということと同時に、自分がどれだけその幼児に心を向けているかを考えてみる必要がある。

また、幼児のつぶやきを聞いていると、大人の言葉遣いとは違う、他の幼児にも分かりやすい幼児らしい表現の仕方をしていることがあり、まさに幼児から学び、自分の対応を考えるきっかけになり得る場合が多い。

5. 幼児の発達を知る重要な手がかりのひとつである（言語が発達を支えていることが見えてくる）

「研究（上）」からただちに一般的な傾向を導き出すには、事例が少なく無理があると思われるが、3歳児の頃にはすべての事物や事象には心があるというアニミズム的な考え方の傾向が強くなり、大きくなるにつれて現実的なものの見方・考え方になっていくと言われていることが（ピアジェなどの観察・研究）、事実、3歳児から5歳児へと成長していくにつれて自然や社会から感じたことに関するつぶやきが多くなっているという私の採集事例からも裏付けられる。つまり、そのような幼児の認識の一般的な発達段階の傾向を、つぶやきの表現の変化からも見ることはできたと考える。

発達の要素には、身体的なもの、知的なもの、精神的なもの（心、感情）があるが、健全な発達をしていくうえでの言語発達の役割は大きく、子どもの育ちを援助する大人としては、言語のもつ機能や特徴をよく知っておく必要がある。

(1998. 9. 30)